

他職種から薬局への 相談事例集



泉佐野薬剤師会 大阪府薬剤師会
(平成29年度地域連携による在宅医療サポート事業)

当事例集の留意事項等

当事例集は、平成29年度患者のための薬局ビジョン推進事業（大阪府：地域連携による在宅医療サポート事業）において、熊取町をモデル地域として実施した、時間外を含めた他職種からの相談対応の結果を抜粋したものです。

実際の他職種からの相談事例や対応時のポイントを取りまとめておりますので、各職種から寄せられた相談内容の雰囲気等の参照に活用してください。

目次

◆相談件数等の結果	1
◆相談事例	
・ 訪問看護師	2
・ 医師	4
・ 施設職員	6
・ ケアマネジャー	7

事例集の見方

Q1

平日(〇時)

相談のあった時間帯等

月～金： 土日：

A1

〇〇〇〇

ポイント：

〇〇〇〇

今回の相談事例における対応を記載しています。

注：実際の対応は、個別の背景等を勘案して行ってください

今回のような相談事例への対応を行う上で、
備えておくことが必要な事項等を挙げています。

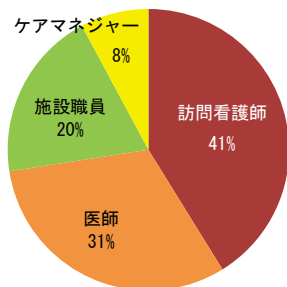
◆相談件数等の結果

実施期間（平成29年9月～12月）において、医師、訪問看護師、ケアマネジャーや介護職種等と連携し、患者の服薬状況や薬に関する相談を薬局で受け、集計した結果は次のとおりです。

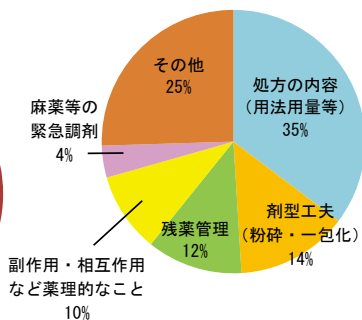
他職種からの相談応需の記録数 49件

※その他、患者・家族からの相談または
問合せ38件（時間外（薬局閉局時）の集計）

相談者の職種

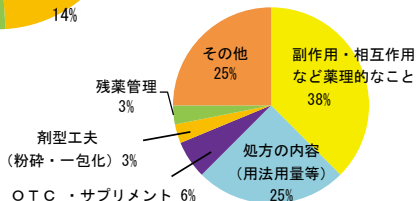


他職種からの相談内容の分類



<参考>

○患者・家族からの相談内容の分類



- 本事業は、地域内の在宅医療・介護連携推進会議に積極的に出席し、改めて薬局の相談機能の活用への理解を求めるといった試みを実施しました。
- 併せて実施した相談事例の集計結果においては、時間外の問合せとしては、患者からの服用に関する不安に関する相談が多く、その殆どは電話上のコミュニケーションで解決されていました。
- 他職種からの相談の殆どは開局時間内にあることが多く、レスキューの数量不足や誤処方があった場合の対応を除いて休日の緊急対応は少数であり、24時間対応を標榜周知したことで、夜間の対応が日常的になっているという申し出はありませんでした。

◆ 訪問看護師から薬局への相談事例

Q 1

3種類の注射薬（抗生剤、H₂ブロッカー、ステロイド剤）を混合し、投与しても問題ないですか？

平日（15時）

A 1

配合変化はないと思われるが、単独のルートでの投与が推奨されます。

ポイント：

薬局でも注射薬の配合変化に関する問い合わせが有り得るので、書籍やインターネット（企業やPMDAのホームページ等）による情報を参照できるようにしておくことが必要。（製薬会社へも適宜問合せを行う。）

Q 2

カリウム内服薬が処方されているが、錠剤が大きく患者が服用しづらいが、良い方法はないですか？

平日（13時）

A 2

同じ効果のカリウム内服薬の散剤への変更を医師に打診してみます。

ポイント：

同じ種類で同じ薬効の医薬品が使用できるケースがあるので、薬剤師より提案する。

Q 3

退院時に病院よりもらった薬の整理をしてほしい。

平日（19時）

A 3

残薬を確認し、処方日数を調整いたします。また、お薬カレンダーを使用して、以後きっちりと服用できるように説明いたします。

ポイント：

処方日数の調整の他、患者が服用しやすい剤形（例えば、錠剤からOD錠等）についても提案することも検討する。

◆訪問看護師から薬局への相談事例

Q4

形成外科を受診後、鎮痛剤が処方されたが、他の病院で処方された別の鎮痛剤を現在服用中である。併用しても問題ないですか？

平日（開局時間内）

A4

その薬同士であれば、併用しても問題はありません。

ポイント：

医薬品の添付文書等より、作用機序の違いや飲み合わせに関する情報を調べて回答した。
（対応について適宜、処方医へ報告を行っておくことも重要）



◆ 医師から薬局への相談事例

Q 1

普段より麻薬を服用中の患者が、突発性の痛みを訴えているため、別の種類の麻薬を処方するので対応してもらえますか？

土曜(20時)

A 1

すぐに調剤し、レスキュードーズの使用方法についても説明します。

ポイント:

在宅対応において、週末(土日)のレスキューの数量不足への対応がしばしばあり得る。週末前に数量確認を行うことがポイントだが、本事例のように、患者の容体の急変等の場合には、時間外においても対応することが必要。
なお、レスキュードーズについては患者自身(家族)が管理することになるので、丁寧に指導しておくことが重要。

Q 2

患者に処方した薬の用量が誤っていたので、正しい用量で調剤してもらえますか？

土曜(15時)

A 2

速やかに患者に連絡し、新たに調剤いたします。

ポイント:

このようなケースは予測できないが、健康被害を防止するため、時間外でも対応することが必要となる。

Q 3

在宅中心静脈栄養輸液を投与している患者で血清カリウム値が高い。カリウムが含まれない他の輸液製剤はありますか？

平日(9時)

A 3

カリウムが含まれない高カロリー輸液用基本液がありますので、アミノ酸注射液、ビタミン剤注射液を混合して使用することを提案いたします。

ポイント:

糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素が全て含まれている総合的な輸液製剤以外にも、各種輸液製剤がある。

◆医師から薬局への相談事例

Q 4

授乳婦の患者に、胃酸の分泌を抑える薬を処方したいが、授乳は避けた方がよいでしょうか？

平日(18時)

A 4

その薬であれば、服用後に授乳しても問題はありません。

ポイント:

妊婦・授乳婦へ医薬品の使用について、書籍やインターネット(企業やPMDAのホームページ等)による情報を参照できるようにしておくことが必要。(製薬会社へも適宜問合せを行う。)



◆施設職員から薬局への相談事例

(特別養護老人ホーム、サービス付高齢者向住宅、通所リハビリテーション施設等)

Q 1

入所者に対して抗生剤の散剤を1日3回服用してもらう必要があるが、苦みのある粉のため飲みづらいという訴えがあります。
※ケアマネジャーを含めた相談

平日(9時)

A 1

蒸留水や水道水に溶かして服用してください。苦みについては、単シロップやブドウ糖液を使用することで緩和できます。

ポイント:

服用方法への助言を求められることは比較的多い。

製薬会社へ問合せし、単シロップやブドウ糖液が使用可能である回答を得た。

(今回のケースでは、白湯に溶かすことで問題なく服用できた。)

Q 2

便秘薬の軟カプセルを経管チューブより投与する場合、どのように服用させればよいのでしょうか？

平日(12時)

A 2

簡易懸濁法(錠剤やカプセル剤をそのまま温湯に崩壊懸濁する方法)を提案した。

ポイント:

簡易懸濁法を提案するケースはしばしばあるので、その可否を書籍やインターネット(企業やPMDAのホームページ等)による情報を参照できるようにしておくことが必要。(簡易懸濁の可否は、製薬会社からは正式な回答が得られない場合もある。)

Q 3

野外で日光を浴びることがあるため、副作用のリスクの少ない湿布薬について教えてほしい。

平日(14時)

A 3

湿布薬には、光線過敏症を起こしやすい薬効成分を含むものがあるため、それ以外の湿布薬を提案した。

ポイント:

ケトプロフェンやその類似成分では、光線過敏症の報告があるため、注意が必要となる。

◆ケアマネジャーから薬局への相談事例

Q1

認知症患者の1日の服用回数を減らすことは可能でしょうか？

平日(12時)

A1

医師に相談し、1日4回→3回に服用回数を減らした。

ポイント：

在宅業務では、認知症の方についての服用管理に関する相談も多い。

今回のケースでは、処方医と相談の上、1日の服用回数を減らすとともに薬の一包化も行い、服用しやすい工夫を施した。

Q2

パーキンソン病の薬とバナナジュースの飲み合わせについて教えてほしい。

土曜(10時)

A2

抗パーキンソン病薬に含まれるレボドパという成分は、バナナと同時に服薬すると吸収が悪くなる場合があるので、可能であれば避けた方がよい。

ポイント：

こうした服用方法に関する相談は時間外でも有り得る。

なお、レボドパは牛乳やヨーグルト、バナナ、アミノ酸を含むスポーツ飲料、ビタミンB6と同時に服薬すると吸収が悪くなるといった報告がある。



おわりに

今後の薬剤師業務においては、多職種連携に積極的に参画し、お互いに顔が見える関係になっていくことが重要とされていますが、今回相談者となった他職種からの薬局薬剤師の相談回答に関する満足度は高く、円滑な薬剤管理に繋がった他、その後の訪問薬剤管理指導の依頼に繋がったという意見もありました。

収載事例は少数ですが、業務の参考としていただく他、未だ地域における各会議への参加や、時間外の対応をされておられない施設においては、開始を検討するきっかけとしても活用いただければ幸いです。

MEMO